

土気教室 教室長 石崎善信に聞く

# 公立高校入試の傾向と対策



## Q. 公立高校入試で求められる学力は？

A. 現在の高校入試は本質的な学力、つまり、未知の問題であっても自分で考え抜いて解決できる力が求められています。公立高校入試の全県平均点は数年前に比べ大幅に低くなり、難化していることがわかります。

国語では、数年前から始まった 200 字程度の作文に加え、聞き取り検査も実施されるようになりました。「何時に行くと言っていましたか」「〇〇と言っていたのは誰ですか」のような単なる語句を問うものではなく、聞き取った文章の構成や要点を聞くような問題になっており、これまでの読解力、記述力だけではなく、聞き取りによる理解力、思考力も見るようになってきました。

また英語では、あたえられた場面の中で主人公が何と何をかを書く自由英作文も出題されています。H27 年度は、昼食を家に忘れてきた友達におきて何と声をかけるか 20 語程度で書くというような問題でした。英語に関しても、単なる文法知識だけではなく、それを実際に使えるかが求められているのです。

## Q. それに対して誉田進学塾は？

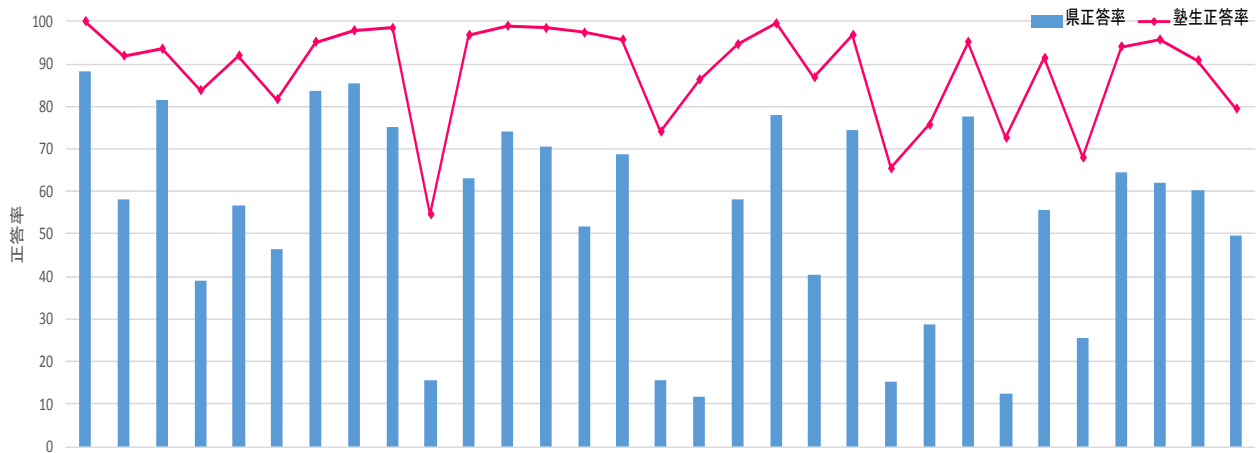
A. 前述のとおり、入試では本質的な学力を問う難易度の高い問題が出題されるようになりましたが、公立最難関校では、どの科目も 8~9 割もの得点が求められます。本当の意味での学力を問う問題に対応できなければ難関校の合格を勝ち取ることはできず、難問をいかに取るかがカギをにぎっています。

誉田進学塾では、開校以来「本質的な学力を身につける」ことを指導理念としてきました。入試が進化し本質的な学力を求める傾向が進めば進むほど、私たちの実践してきたメソッドが最大限に発揮できると考えています。

実際、県教育委員会から発表された公立入試（英語）各小問の正答率と誉田進学塾生の正答率を比較してみると、先ほどあげた英語の自由英作文問題（大問 6）は全県正答率 12% に対し、誉田進学塾生の正答率は 86% です。すべてをお見せすることはできないので英語と数学のみの掲載にしますが、本当の意味での学力がためされる問題でこそ、誉田進学塾生の強さが際立つ結果になっています。

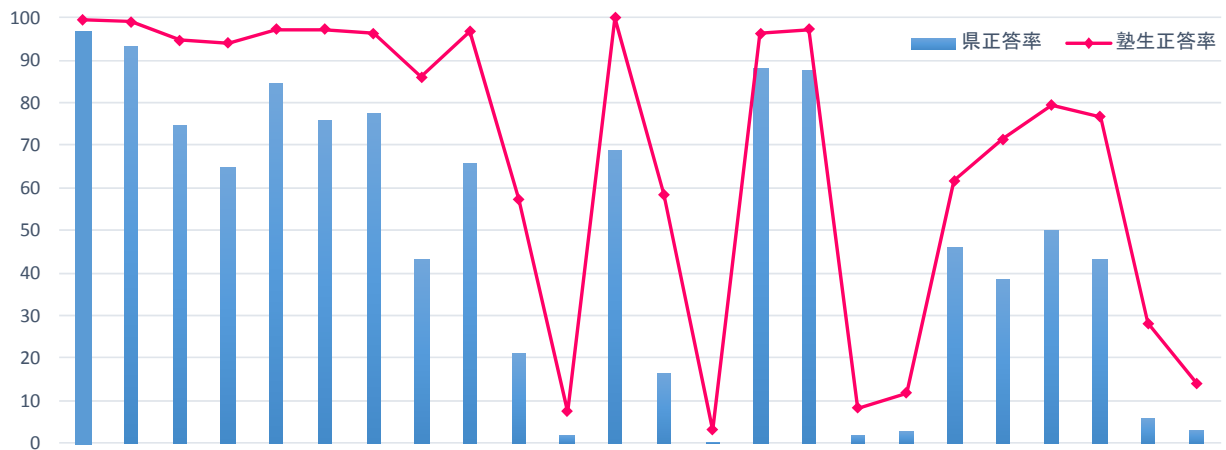
# ★2015 年度 公立前期入試（英語）各問題正答率（全県 VS 誉田進学塾生）

## 英語



大問	1				2				3				4				5				6		7				8				9					
中問	1	2	1	2	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	A	B	①	②	①	②	1	2	3	4	1	2	3	4
小問	88.2	58.3	81.5	39	56.7	46.5	83.6	85.3	75.2	15.6	63.2	73.9	70.5	51.9	68.7	15.6	11.8	58	78.1	40.4	74.5	15.4	28.8	77.6	12.6	55.5	25.4	64.4	62.2	60.4	49.5					
県正答率	100	91.9	93.5	83.8	91.9	81.6	95.1	97.8	98.4	54.6	96.8	98.9	98.4	97.3	95.7	74.1	86.3	94.6	99.5	86.8	96.8	65.4	75.7	95.1	72.6	91.4	67.9	94.1	95.7	90.8	79.5					
塾生正答率																																				

## 数学



大問	1						2					3					4					5														
中問	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3		
小問																																				
県正答率	96.6	93.1	74.6	65	84.4	75.9	77.4	43.2	65.6	21.1	1.9	68.6	16.6	0.4	87.9	87.5	1.9	2.6	45.9	38.4	50	43.4	6	3.2												
塾生正答率	99.5	98.9	94.6	94.1	97.3	97.3	96.2	85.9	96.8	57.3	7.6	100.0	58.4	3.2	96.2	97.3	8.4	11.9	61.6	71.4	79.5	76.8	28.1	14.1												

## Q. 本質的な学力を身につけるためには？

A. 過去の高校入試ならば、マニュアル通りの受験テクニックや知識の詰め込みなどで対応できたかもしれませんが、本当の意味での学力を求められる現在の入試ではなかなか太刀打ちできません。ですから、誉田進学塾の授業では、「その1問の解き方を教える」のではなく、「その1問を題材として、いかに解決力を身につけるか」をテーマにしています。目の前の問題がただできれば良いのではなく、どうしたら解法への手がかりをつかむことができるのかを習得しなければ本当の意味での学力とはならないのです。だからこそ、授業は生徒が主役です。講師が一方的に講義する詰め込み式ではなく、生徒からの発言を引きだし、自ら考え発見する「対話 参加型」。生徒が活発に発言し、笑いも起こる授業は、多くの方から「驚きました」という感想をいただきます。

ただ、こうした授業を展開し指導するには、生徒を正しい方向に導くプロの講師でなければなりません。ですから、誉田進学塾ではすべての授業を正社員の専任教務スタッフが担当しています。受験生を毎年指導し蓄積してきた経験を次の受験生に直接活かすためには、数年ごとに入れ替わる学生講師ではなく、正社員の専任教務スタッフにこだわる必要があるのです。

## Q. 難関高校受験に必要なことは？

A. 誉田進学塾は全員が難関校受験を目指す専門塾です。塾生全員が県立千葉高、船橋高、千葉東高、佐倉高、市立千葉高、長生高を始めとする難関校進学を目指し、普段から同じ目標を持つ良きライバルと切磋琢磨しています。

その結果、毎年多くの受験生が公立 私立問わず難関校に合格。現在、県立千葉高に在籍する生徒のうち、100名以上が誉田進学塾卒塾生であるのを始めとして、毎年塾生の75%以上が偏差値65以上の難関校に進学（昨年度進学実績参照）しています。私たちは毎年結果を出し続けているのです。

目先の結果だけにとらわれず指導するプロ講師がいて、高い目標を目指す仲間とともに本質的な学問を学べる場。それこそが難関校受験に必要な環境です。